

[成果情報名] 極早生温州ミカン「久(ひさし)早生」の特性

[要約] ミカン新品種「久早生」は、「岩崎早生」と比べ、果皮の着色と減酸が早く果形がやや扁平で早熟な極早生である。

[キーワード] 「久早生」、着色、減酸、早熟、極早生

[担当] 長崎果樹試・育種科

[代表連絡先] 0957-55-8740、s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

本県では、収穫労力の分散を図るため、早熟性で高品質な極早生品種の育成への期待が大きいが、9月から出荷できる品種が少ないため、極早熟の変異系統が求められている。

1994年に西海市の上野久治氏が発見した「岩崎早生」の枝変わりは、早熟系統として注目され、「久早生」として品種登録出願された。

そこで、極早生温州「久早生」の品種特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．果皮の着色が早く、8月下旬に脱緑期に入り、9月上旬に着色はじめ、10月上旬に完全着色となる(表1、図1)。
- 2．酸含量は、9月中旬には1.0g/100ml程度になる傾向で可食期となる。果形がやや扁平で、果心が大きく、果頂部がやや陥没している(表2)。
- 3．樹勢は、「岩崎早生」に比べ、弱く、枝しょうの節間長が短く、樹がやや小さい(表3)。
- 4．枝葉の特性としては、「岩崎早生」に比べ、トゲがやや発生し、葉身が小さい。花は、花糸の数が多く、花の重さが重い傾向にある(表3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．「久早生」は、高接ぎ5年目で、対照の「岩崎早生」は近隣の14年生樹である。
- 2．樹勢がやや弱く、果実がやや小さくなりやすいので注意が必要である。
- 3．「久早生」は、2005年2月9日に長崎西彼農業協同組合により品種登録申請され、2005年11月7日に出願公表されている。

[具体的デ - タ]

表1 久早生の果実の着色期 (2004)

品 種	着色歩合		完全着色期
	9月13日	9月24日	
久早生	2分	7分	10月上旬
岩崎早生	0分	2分	10月中旬



図1 対照品種との着色比較 (2004.9.23)

表2 果実の特性 (2004.9.13)

品 種	果実重 (g)	果形指数	果皮歩合	屈折計 示度 (%)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果心の 大きさ (mm)	果頂部 の形
久早生	78.2	138.3	20.8	9.32	1.09	8.53	22.3	陥没
岩崎早生	87.9	128.2	19.7	9.41	1.26	7.47	17.0	平坦
有意性 ^z	NS	*	*	NS	*	*	*	

^z t検定により5%レベルで有意差有り
注) 7月下旬に白色シート被覆したマルチ栽培の果実特性

表3 枝葉および花の性質

品 種	樹の大き さ	樹 勢	節間長	枝梢のとげ の多少	葉身長 (cm)	花弁の 長さ	花糸数	花の重さ (g)
久早生	小	弱	中	少	9.3	中	22.7	0.54
岩崎早生	中	中	長	無	10.9	長	18.9	0.47
有意性 ^z					*		*	NS

^z t検定により5%レベルで有意差有り

[その他]

研究課題名：温州ミカンの新品種の適応性

予算区分：県単

研究期間：2002～2004年

研究担当者：高見寿隆、根角博久